

●訪豪少年教育交流団オーストラリア研修報告

お問い合わせは教育委員会 ☎ 64・4343

記事中の感想文は、参加者の原文をそのまま掲載してありますので、ご了承ください。



▲古い建物と新しい建物が混在する町（シドニー）

**訪豪少年教育交流団
オーストラリア研修報告**
8月2日(木)～8月10日(金)
町内中学校の2、3年生19人がオーストラリアニューサウスウェールズ州を訪れ、ペンリス市でホームステイを通じて教育交流を行いました。

外国を感じることの大切さ

交流団団長 河田雅弘（東安中学校長）

酷暑の日本から冬の豪州へ、今年も19名の生徒がオーストラリア研修に参加しました。

昨年同様、シドニー近郊のパラマタ市を中心にホームステイをし、日常生活を外国人とすることで、外国を肌で感じる研修をしてきました。十分使えない英語ですが、身振り手振りで精一杯気持ちを伝え、意思疎通を図ることの大切さを学んでくれたように思います。今まで学習してきた英語を実際に使ってみるよい機会でもありました。

オーストラリアで見かけた多様な外国人の多さから、オーストラリアが多民族国家であることを自分の目で確認することもできました。

ブルーマウンテンズに行つて自然の雄大さや美しさを知りました。実際に現地を訪れ、自分の肌で感じる外国は、これからのグローバルな見方を育てる上でとても大切です。こうした体験は、生徒たちのこれからの人生に大きな方向性を与えるのではないかと感じます。



オーストラリア研修を終えて

登龍中学校3年 岩田 歩実

オーストラリアでは、太陽が北側に見え、季節も日本と逆で肌寒い日もありましたが、研修中は晴天に恵まれ、快適に過ごせました。

英語の授業を受けたり、学校・消防署見学をしたり、世界遺産のオペラハウスやブルーマウンテンズを訪れた他、コアラに触れたり、カンガルーを間近で見ることができました。

ホームステイ先では、私の英語が通じるか不安もありましたが、とても親切に接してくださり、会話できたことがとてもうれしかったです。また、団員の子たちとも仲良くなり、よい思い出ができました。

最後になりましたが、お世話いただいた教育委員会の方々や先生方にはとても感謝しています。本当にありがとうございました。



▲とても親切にしてくれたホストファミリーの皆さん

人と関わること

東安中学校2年 弥永 泰知

初めはホームステイが、不安で不安で仕方ありませんでした。しかし、その不安は初めだけでした。ホームステイ先の家族が、優しく接してくれました。おかげで、緊張することなく話すことが出来ました。英語がわからなくて言いたいことを言えないときは、ジェスチャーを使って表現しました。ホストファミリーの方は、そのジェスチャーを頑張つて理解しようとしてくださいました。言葉が通じなくても、伝えようと思えばその思いが伝わるんだと思いました。

この研修は、人は言葉が違つても、努力し明るく接することで、お互い通じ合えるという事を教えてくれました。僕は、これからこの経験を生かし、どんな人とも明るく関わりたいです。



▲とても明るく接してくれたホストファミリーの皆さん